

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成19年 9 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4673600104
法人名	社会福祉法人 市比野福祉会
事業所名	グループホーム きままの郷
所在地	薩摩川内市樋脇町市比野3244番地の1 (電 話) 0996-38-2700
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	

【情報提供票より】19年8月14日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 9 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 15 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費他15,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	5 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	市比野記念病院 田中歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな盆地に建っている設立4年目のグループホームである。一見日本旅館のような建物は、利用者の健康とプライバシーに配慮し、庭に湧く足湯は、涼しくなると散歩帰りに利用者の疲れを癒すこととなる。近隣には関連施設・併設施設として、特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・病院・介護老人保健施設・訪問看護ステーションなどを有し、医療との連携や利用者の身体・社会的環境を考慮したサービスの多様化が図れるという利点を持つ。職員の研修意欲も高く、利用者中心のケアプランを立てて、質の高い介護サービスを提供している。利用者が自分らしく振舞い、いきいきと暮らすホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で「運営理念の啓発」「継続的な研修の受講」「市町村とのかかわり」が課題となっている。運営理念の啓発のために「便り」を隔月ごとに発行、自治会へ加入し活動にも参加している。また、職員教育用の資料を作成し、研修に役立てている。市町村との関わりでは、運営推進会議に行政からの参加があり、保健センターとの連携を図るなど取り組み改善が顕著である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者・管理者・職員は、自己評価をより良いサービスを提供するために大切な機会ととらえ、全職員で改善に取り組んでいる。具体的には資料を全員に渡し、それぞれ検討した後管理者が集約し、職員全員で話し合いながらまとめている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は家族代表・地域代表・行政・在宅介護支援センター職員などが参加し、外部評価の結果報告も含め、様々なテーマで紹介や話し合いを行っている。権利養護・成年後見人制度についての情報提供の要望は、行政関係者の参加があったためすぐに実行に移している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者や職員は、家族などが面会に来た時や電話で状況を報告する時に声をかけ、意見や相談を聞くようにしている。また、相談・苦情受付簿があり受けた相談や苦情は、内容によって職員会議や栄養委員会などで検討し、解決を図っている。年2回家族会を開いてはいるが、意見の集約まで至らないまま運営推進会議に家族代表が参加している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し防災訓練や清掃作業などに参加したり、学校・保育園・地域の行事にも積極的に参加している。また、老人クラブの会員の見学を受け入れ、グループホームについて理解してもらい、交流ができるよう取り組みを行なうなど地域との連携を図っている。

調 査 報 告 書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしく、笑顔いっぱい、安心と尊厳のある生活を」という独自の理念を掲げ、自治会や地域との関わりのなかで理念を紹介し、地域のなかでの暮らしについても理解していただけるように努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝唱和することで理念を確認すると共に、玄関・リビング・事務室などに掲げ、だれもが目に入るようになっている。また、毎日の業務の中で機会を見つけて振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し防災訓練や清掃作業などに参加したり、学校・保育園・地域の行事にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は、自己評価及び外部評価をより良いサービスを提供するために大切な機会ととらえ、全職員で改善に取り組んでいる。また、昨年の外部評価の終了後には改善点について検討し、取り組みを図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族代表・地域代表・行政・在宅介護支援センター職員などが参加し、外部評価の結果報告も含め、様々なテーマで紹介や話し合いを行っている。活発な意見が議事録からも推察できる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の認定更新手続きなど市役所に出かけた時に相談をしたり、保健センターとの連携をとり権利擁護の情報提供をしてもらう等、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個々に利用者の暮らしぶり、金銭管理や職員異動の報告を郵送にて行っている。また、面会の時や電話でも、機会あるごとに日常生活の様子などを伝達し家族と情報を共有している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、家族などが面会に来た時や電話で状況を報告する時に声をかけ、意見や相談を聞くようにしている。また、相談・苦情受付簿があり、受けた相談や苦情は内容によって職員会議や栄養委員会などで検討し、解決を図っている。ただ、年2回の家族会を開催し運営推進会議に家族代表が参加しているが、他の家族の意見を吸い上げたり、苦情を代表が伝えるまでは機能していない。	○	今後更なるサービスの質の向上に向け、無記名での家族アンケートを実施したり、介護相談員の受け入れを行うなどの取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の頻繁な異動が利用者にと及ぼす影響をよく理解し、異動は少なくするように配慮している。また、新任者は利用者に丁寧に紹介し、混乱が起きないように配慮を行っている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者の教育に関しては、プログラムを作成し取り組んでいる。現任教育は関連病院と共に、毎月勉強会を行っている。また、所外の研修は職員会議や復命書で伝達し、研修に参加できなかった職員も情報の共有を行い、質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設であるグループホームとの交流や地域のグループホームとの交流により、ネットワーク作りやサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設利用をしていた利用者には、入居前に施設を訪問し面接を行う。また、本人や家族にグループホームに来所してもらい、他の利用者と話しをするなど雰囲気に少しずつ馴染めるような配慮を行っている。入居後しばらくは家族の面会を多くするなど、混乱や不安をきたさないような工夫も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者への尊厳を常に念頭に置き、介護される一方の立場におかず、生活歴や職歴を参考に畑作り・歌・戦争体験を教えていただくなど、本人から学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にどのような暮らしをしてきたのか、どのような暮らしをしたいのかを聞き取り、アセスメントに活かしている。また、日々のかかわりの中から気がついたことを介護日誌や伝達ノートに記載し、定例会議で取り上げ、本人の意向に副った介護を行う為の検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を中心にケアカンファレンス、本人や家族が参加したサービス担当者会議を開き、個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、担当者が目標ごとにプランに沿った介護を行っているかチェックをし、計画作成担当者はその内容を確認している。3ヶ月ごとに計画作成担当者がモニタリングを行い、サービス担当者会議やプランの見直しは6ヶ月ごとに行っている。なお、見直し以前に計画の変更の必要がある時には、あらたな計画を作成している事が記録から確認できる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅を見に行ってみる。墓参りをする。医療処置が必要になり入院して落ち着かない利用者のためにしばらく職員が付き添う等、本人や家族の暮らしを守るために柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人や家族から主治医等について聞き取り、希望を踏まえてかかりつけ医を決めている。関連施設に医療機関があり、そことの連携は十分にとり、他の機関については家族を通して日頃の状況を伝え、適切な医療を受けられるように関係作りを行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算をとり、医師との連携がとれている。「重度化した場合における対応の指針」「看取りに関する指針」を決め、本人や家族にも説明し、勉強会をしながらスタッフも共有を図っている。現在までは、重度化した場合や終末期には、家族との話し合いの上で関連の施設等への退居となることも多かった。	○	勉強会を経て職員の意欲も高まっている。訪問看護ステーションとの契約が済み、定期的な訪問が予定されていることもあり、医療との連携を図りながら、終末期や看取りに向けて前向きに受け入れられるように職員の力量や体制を整え、更なるサービスの質の向上を図ることを期待したい。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、言葉掛けや語調に気をつけた対応に徹している。記録等は利用者や外来者の目に触れないように保管し、電話の対応についても話し合いを行い、日頃から確認や改善について取り組みを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・食事・入浴・散歩等、一人ひとりのペースや希望を尊重し、自己決定の表出を促したり、判断力をそがないような支援を行っている。また、言葉では十分に意思表示の出来ない利用者には、注意深い観察や家族の協力を求めることで希望する暮らしを推し量り、支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや嫌いな物を把握し、旬の食材やホームの炊で取れた食材を利用し、好みや嚥下・咀嚼能力に配慮した献立を考えている。職員も一緒に食事をして会話をしながら、食後はできる人ができる範囲で後片付けに加わり、楽しい雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽のお湯は一人ひとり交換し、入浴の時間帯・入浴時間・シャワー浴など利用者の希望に合わせて行っている。涼しくなれば敷き地内の足湯を散歩帰りなどに楽しむ事もできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握し、役割や出番を演出している。また、下膳時の食器集めなど「これは自分の仕事」といきいきと仕事をする利用者の姿が見える。ただ、生活歴や趣味等のフェイスシートなどのわかりやすい場所への記録は見当たらない。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月・水・金が受診日のため火・木・土・日曜日に車を利用し、お墓参りなど外出の機会を作っている。散歩は希望すれば出かけるが、多数が一度に出ることは安全上控えている。また、散歩に出かける機会が少ない人は、入りのベンチなど少しでも戸外の空気に触れるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解して、利用者の習慣や癖を把握し、常に居場所を確認しながら声かけ見守りをする事により、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導による夜間想定も含めた訓練を行っている。災害対策マニュアルを作成し、備品の設備や非常食の保管も必要量を確保している。また、地域の訓練にも参加し、地域の理解を求められるように努力している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養委員会を定期的開催し、メニューなどの検討を行っている。また、関連施設の栄養士の協力で栄養のバランスについてもアドバイスをもらっている。食事の摂取状況を記録し、飲水量は大まかに把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を植え、ベンチを用意している。廊下や食堂は明るく、昔懐かしい調度品や小物を飾っている。季節の花も飾り、所々に小さな居場所のスペースを作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、家族が泊まるのに十分なスペースがある。また、テレビや家具など使い慣れたものや好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		